

第 80 号

平成24年10月31日 発行

茶業会議所広報

発行所
 (社)静岡県茶業会議所
 静岡市葵区北番町 81 番地
 電話 (054)271-5 2 7 1 (代)
 FAX (054)252-0 3 3 1
<http://www.wbs.ne.jp/bt/chacha/>

平成 24 年事業報告 (経過報告)

茶業会議所が行う各種事業の費用は、皆様が負担されている茶業振興費で賄われています。

静岡八十八夜キャンペーン

平成24年 4月23日 (月) 静岡茶市場で行われた新茶初取引において、業界をあげて「安全・安心な静岡茶」をアピールするとともに、東日本大震災の被災地に復興を願い新茶郵便の発送式を行いました。



平成24年 5月 1日 (火) の「八十八夜」、県内主要茶産地の茶娘が、新茶の出来栄を川勝県知事に伝える報告会が静岡空港ターミナルビルで行われ、榛村会頭が「お茶を飲んで、健康で長生きして、美しく」とあいさつした。

また、空港ターミナルビル2階において、5月2日 (水) ~6日 (日) まで、八十八夜のほりを掲示し、新茶郵便ポストを設置し、来場者に新茶の呈茶とPRを行いました。



平成24年 5月13日 (日) の「母の日」、全国茶業連合青年団の「母の日新茶を贈ろう」キャンペーンには、静岡新茶のPRを行いました。



新東名での静岡茶PR

平成24年 4月14日 (土) に開通した新東名のSA, PAにおいて、7月21日 (土) 22日 (日) 藤枝PA、7月28日 (土) 清水PAにおいて、冷茶のPRを行いました。



また、NEXCO中日本主催の「ゴーイング・ハイウェイ2012」において、平成24年 9月29日 (土) 30日 (日) 駿河沼津SA・海老名SAにおいて、冷茶のPRを行うとともに、11月に開催される「全国お茶まつり」の紹介をしました。



◆平成24年度茶業振興費◆

平成24年度の茶業振興費は、従価制とし、賦課基準などは、従来どおりです。

茶業会議所・会員及び茶業会議所が徴収を委託した(株)静岡茶市場が徴収いたしますので、ご協力をお願い申し上げます。

(1) 生産割 売り手（生産者）が負担し、徴収者に預ける。

粉引後の荒茶取引額（荒茶受渡数量×単価－粉引額）×0.1%

(2) 宣伝割 売り手（生産者）、買い手がそれぞれ負担し、徴収者に預ける。

売り手負担分：粉引後の荒茶取引額（荒茶受渡数量×単価－粉引額）×0.18%

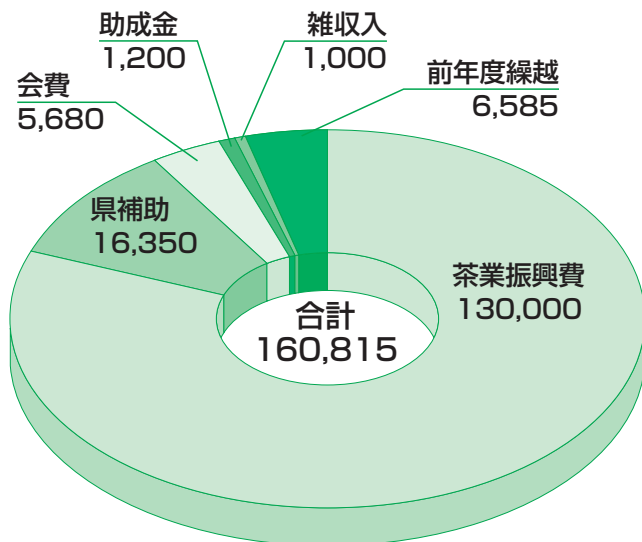
買い手負担分：粉引後の荒茶取引額（荒茶受渡数量×単価－粉引額）×0.18%

◆平成24年度予算の概要◆

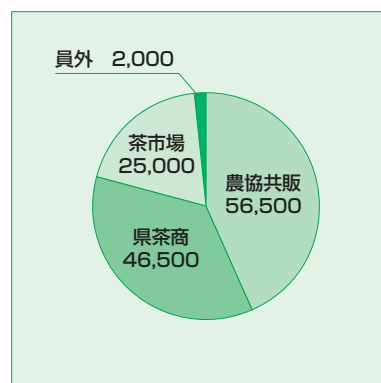
平成24年度の茶業会議所一般会計予算額は、茶業振興費や県補助金などを合わせ1億60,815千円となります。

収入

単位：千円

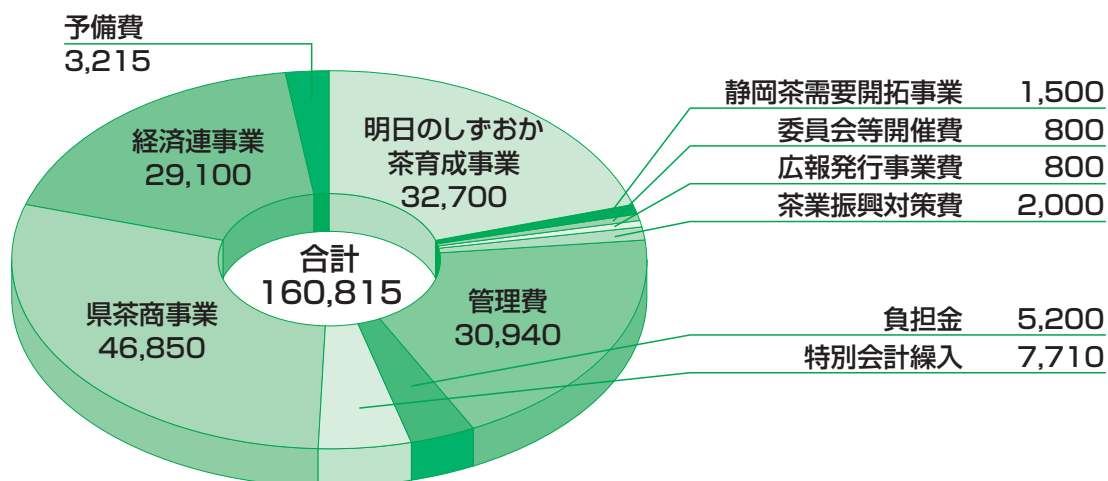


徴収者別の茶業振興費の徴収見込み額



支出

単位：千円



平成24年度事業の内容

1 明日のしずおか茶育成事業

(1) しずおか茶安心づくり事業

ア T-GAP、T-GMPの推進

静岡茶の信頼と信用を一層強固なものとし、消費者からの支持を獲得するべく、茶生産者並びに茶商工業者を対象にT-GAP並びにT-GMPの普及推進を図る。

イ 静岡茶衛生管理者の普及

クリーンかつ安心で安全な静岡茶を提供するため、茶の生産と製造に関わる者の食品衛生の意識改革と徹底した衛生管理を導入・定着するべく、茶の衛生管理に関する養成講座を開講、受講者に「静岡茶衛生管理者」認定試験を行い、合格者には資格を与えて、衛生管理の意識高揚及び、衛生管理者の養成と普及を図る。

また、現在「静岡茶衛生管理者」の資格を有する者(約600名)に対し、スキルアップのための研修会の開催やサポート体制の整備を行う。

ウ 茶流通業者・教育関係機関への静岡茶の訴求

消費者に広報宣伝する役目を司る流通業者を対象に、グローバルな視点に立った販売戦略とマーケティング、お茶は天然自然で安全・安心な保健機能を有する飲料であり、静岡茶の安全性、保健機能、歴史・文化等々について、勉強会を開催する。また、静岡茶を販売する末端流通業者を中心に、個性豊かな静岡茶を生産する自園・自製・自販農家等と連携して茶流通業者に安全で個性豊かなお茶をPRすると共に情報提供を行う。さらに、幼児教育とお茶のある生活・空間を提案し、学校教育の現場でお茶を活用いただくために、「飲んで美味しい安全・安心な静岡茶を学校に送ろう」運動を提唱する。

(2) しずおか茶ファン創出事業

ア 小学生出前講座の開催

県内小学生中高学年を対象に静岡県のお茶の歴史や生産、効能等の幅広い学習や美味しいお茶の淹れ方教室を実施し、未来の静岡茶ファンを確保する。

イ 静岡八十八夜新茶・水出し煎茶等のPR

市町等と連携して、静岡八十八夜新茶の全県的なキャンペーンを行なうとともに、平成24年4月14日に開通した新東名高速等のSAやPAなどを活用して県内外の利用者へ静岡八十八夜新茶をPRする。また、静岡八十八夜新茶の商品化も行う。

ウ パンフレットの発行

静岡茶の産地、製造法、歴史、効能機能性、安全性などを説明するパンフレット等を作成し、配布する。

エ 「茶業振興五路線」の普及推進

和産和消・和食路線の推進、緑茶人間(科学)の日、文化・美学路線について有識者を交え、プロジェクトチームを組織して、具体的な展開方法を検討する。

オ メディアを活用した静岡茶のPR

報道関係者に呼び掛け、「メディア・グリーンティーツーリズム in SHIZUOKA 2012」を組織して、効能最前線と銘打って開催予定の、「お茶まつり」をつぶさに取材戴くとともに、情報を提供する。

また、茶産地に向き、自然・文化・人々との交流の体験を通じて静岡茶の広報を行う。

(3) しずおか茶販路開拓事業

ア 茶の効能等のPR

日本を、日本人を元気にするため、茶学術研究会と協働で、

茶の効能を広く広報し、嗜好飲料としてだけでなく、生態調節機能を有する保健飲料としてPRし、静岡茶の更なる消費の拡大と理解に努める。また、茶の効能研究の成果を成分別に分かりやすく且つ漫画的で面白く、しかも親しみやすく纏めた茶の機能効能情報冊子を作製・配布する。

さらに、「茶の機能」第2版刊行に伴い、編集委員会を組織し、発刊に向けた準備を行う。

イ 新需要創造・新商品開発のための情報発信

静岡茶を利用した新需要創造商品の発掘を行い、「静岡茶八十八夜新茶」、「静岡型発酵茶」、「ふじのくに山のお茶100選」などを広報するため、茶業会議所のホームページ等にアップし、情報発信並びに広報し、静岡茶のイメージアップを図る。

ウ 異業種とのコラボレーションによる静岡茶の販路拡大

異業種業界と協働でイベント等に出展し、静岡茶のPRを通して、新しい静岡茶の販路とファン発掘を行う。

エ 他産地茶商との連携による静岡茶販路の強化

消費者に一番近い消費地茶商と連携し、「静岡茶まつり週間」を各々の店頭で新茶、冷茶、熟成茶と称し、年間3回程度開催していただき、静岡茶の販売強化のためのPRを行う。そのために、のぼり、ポスター他、静岡茶消費拡大のためのグッズを作成して配布する。

オ 女性経営者の会の組織化

茶関係業界の女性経営者を組織して意見を伺い、女性の立場からみた茶業界に対する提言、新規事業の提案等いただき、女性をターゲットとした事業を企画立案し、一層の消費拡大に資する。

2 産学連携による新たな静岡茶の需要開拓事業

茶の持つ機能性、効能及び情緒性を融合させた新しい茶のコンセプトをマーケティングリサーチに基づいて創造し、そのコンセプトに沿った商品開発及びトライアル販売と評価により新規リーフ需要の開拓を推進するため、有識者を交え、プロジェクトチームを組織して、具体的な展開方法を検討する。

3 第66回全国お茶まつり静岡大会in掛川開催事業

県内の茶業関係団体及び東京都茶協同組合、日本茶インストラクター協会等により組織された第66回全国お茶まつり実行委員会及び同幹事会を通じて、平成24年11月17～18日に開催される全国お茶まつり静岡大会in掛川の計画策定と開催運営にあたる。

4 茶業会議所単独事業

(1) 委員会等開催費

財務委員会・事業委員会・静岡茶放射能被害対策委員会及び事務連絡会等を開催し、諸振興策を検討し、団体間の連絡調整を図る。

(2) 広報・情報収集、発信事業

本会が実施している事業の告知のため、広報誌を発行する。

(3) 茶業振興対策事業

茶業功績者表彰、杉山彦三郎翁顕彰会への助成、県内各地で開催される各種茶業大会、品評会等への表彰状・副賞の交付を行い、茶業の振興に資する。

5 茶業会館の運営管理

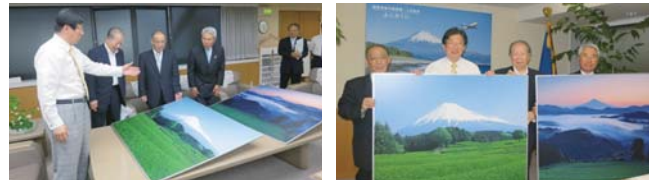
業界の拠点として、広く茶業者の利活用できるような明るい環境を整えるとともに、静岡県茶業会館の保全維持・管理ならびに円滑な運営を図る。

6 会員団体事業

会員である県経済連及び県茶商が実施する生産改善及び消費拡大のための事業経費を支出する。

山は富士、お茶は静岡日本一

平成24年5月29日(火) かって茶業界でお茶の標語として採用した「山は富士、お茶は静岡日本一」にイメージを、県民に広げるきっかけとしようとして富士山と茶園をテーマにした写真パネル2枚を県に贈った。榛村会頭は「静岡県らしい景観の良さを感じてもらいたい」と話し、川勝県知事は「富士山と茶園はよく似合う」と絶賛した。



静岡茶の安全をPR

昨年、静岡茶から放射性物質が検出されたことに伴い、「風評被害」などにより買い控えなどの被害を受け、静岡茶の消費回復を目的に「静岡茶消費回復緊急推進協議会」が組織された。今年度も引き続き、静岡茶の消費回復のため事業を実施している。平成24年6月23日(土) 静岡茶の安全性およびその機能・効用を伝え消費回復へつなげることを目的に、読売新聞(発行部数約1000万部) 全国版へ意見広告を載せた。

8月20日(月)には、大消費地・東京において県と茶業団体による飲料メーカーや大手量販店への訪問活動を実施するとともに、有楽町、東京交通会館において「静岡茶サマーフェア」を開催し、冷茶サービスや静岡茶の試飲販売を行いました。

9月2日(日) 東京都千代田区如水会館において「第15回静岡県地酒まつり」が開催され、静岡県地酒組合より出展ブースをお借りし、参加者1,000人に対して、静岡茶を呈茶し、安全・安心であることや「全国お茶まつり」をPRしました。



読売新聞



静岡茶サマーフェア



第15回静岡県地酒まつり

全国お茶まつりの開催

平成24年11月17日(土) 18日(日)の二日間、掛川市において、全国お茶まつりが開催されます。

8月9日(木) 全国お茶まつりまで「あと100日目」を迎え、お茶まつり開催をPRするため、JR掛川駅南口構内「これっしか処」前においてカウントダウンボードの除幕式を行いました。



お茶まつりチラシ



賛助会員新たに2団体

平成24年6月26日(火)に開催された通常総会において新たに、NPO法人日本茶インストラクター協会と公益財団法人世界緑茶協会の2団体を賛助会員とすることを承認した。

平成24年度杉山賞の表彰

杉山彦三郎翁顕彰会は、平成24年5月1日(火) 駿府公園マロニエ広場において、慰霊式と功績者の表彰を行いました。杉山賞の受賞者は次のとおりです。

- ・茶業振興功労賞
- 堀川知広 (61)
- 海野光夫 (63)
- 長谷川幸司 (75)



平成24年度茶業功績者表彰

平成24年度茶業功績者表彰が、平成24年6月26日(火) 茶業会議所通常総会の席上行われました。

- 渥美富夫 (61)
- 榎本秀一 (65)
- 伊藤京次 (68)



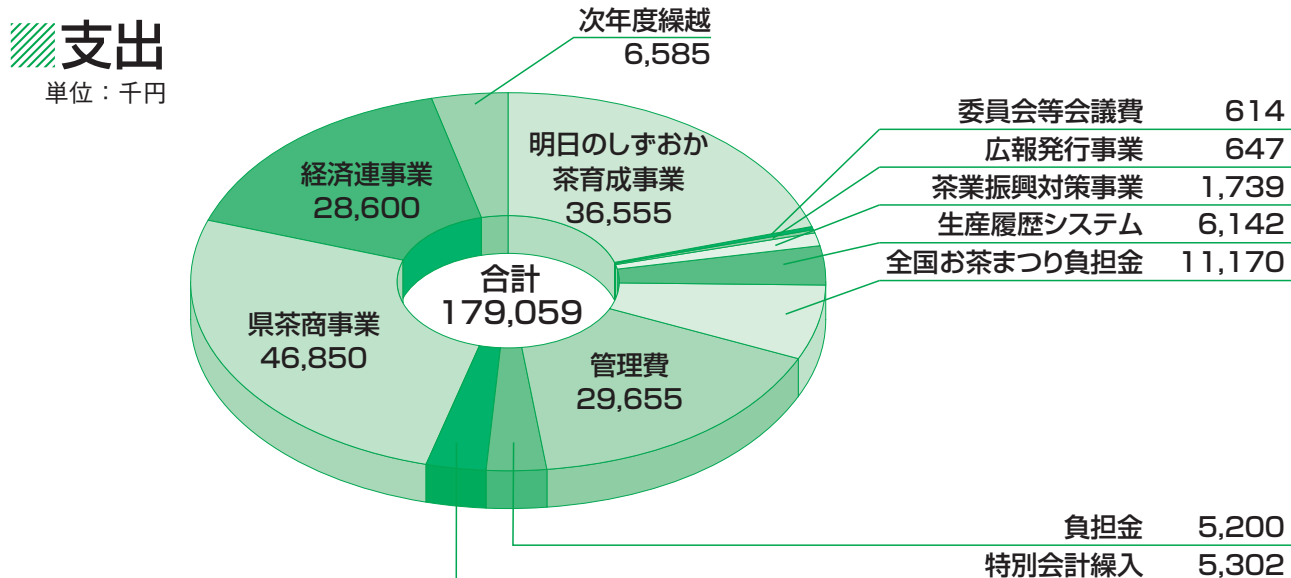
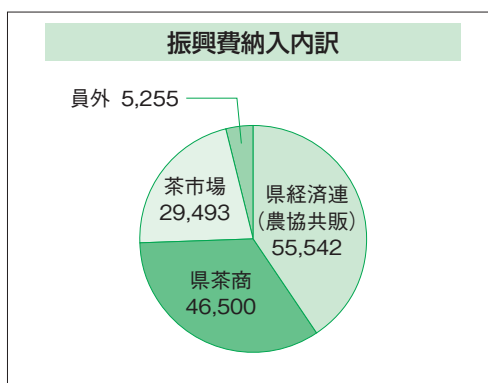
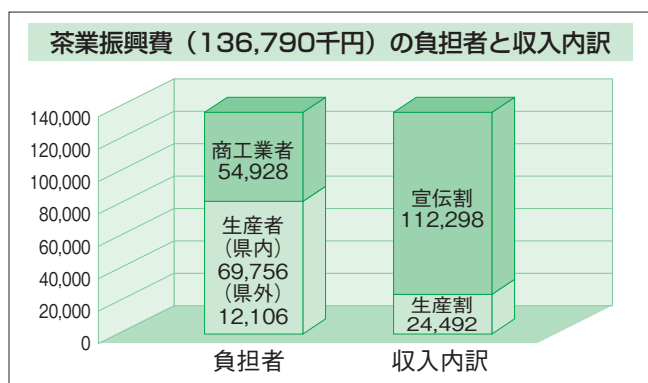
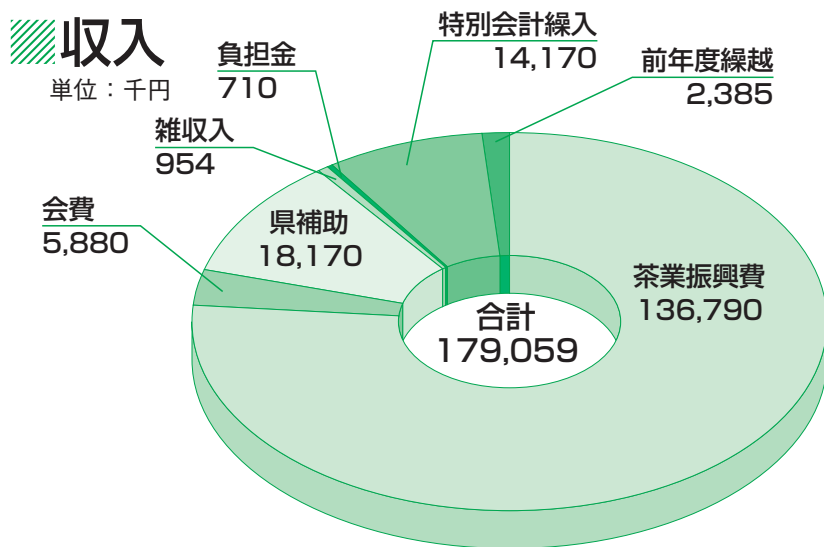
この広報は茶業振興費で作成しました。

平成23年度決算

平成24年6月26日(火)茶業会館において通常総会が開催され、次のとおり承認されました。

茶業振興費は、このように使われました。

皆様のご協力によって納入された、平成23年度茶業振興費総額1億3,679万861円各事業を通して有効に使われました。



平成23年度事業報告

1 明日のしずおか茶育成事業（事業費36,555千円）

(1) しずおか茶安心づくり事業

ア T-GMP(仕上茶の製造工程管理) T-GAP(生産工程管理)の普及・推進

T-GMPの普及・推進を図るため、茶商等を対象とした説明会を開催した。

JGAP(日本緑茶)の改定により、改訂項目の中で緊急的に対応すべき“放射能への対応”についてT-GAP(第2版)を作成、T-GAPへ参加している荒茶工場へ配布し、その対応を図った。

新たにT-GAPの承認を希望する荒茶工場49工場を承認した。

イ 静岡茶衛生管理者の育成

茶製造者等を対象に、法規や茶製造に関する衛生管理等のカリキュラムによる養成講習会を開催し、受講者を対象に「静岡茶衛生管理者」の資格を与える認定試験を実施し、新たに73名の静岡茶衛生管理者が誕生した。

ウ MA²Cシステム(農薬使用履歴の登録)の運用

生産履歴システム導入を推進するため、システム開発者である寺田製作所及びカワサキ機工(株)を通じて加入を促しが、利用者は増えず、今後も固定的に経費を負担することにもなり、事業委員会において、来年度以降継続して事業する必要無しとの指摘を受け、平成24年3月末日をもって、本事業は廃止となった。

農薬使用履歴の推進のため、新たな病害虫に対応した冊子を作成し、茶業関係者へ配布し、農薬の適正使用を促した。

(2) しずおか茶ファン創出事業

ア 静岡茶の魅力の発信

消費者に新茶シーズンの到来を実感してもらうとともに、静岡八十八夜新茶の魅力を発信し、消費拡大を図ることを目的として、JR静岡駅北口地下イベント広場や東名高速富士川SAでの新茶等の呈茶サービスを実施した。

静岡茶の産地、製造方法、歴史、効能機能性、安全性等を説明するパンフレットを発行し、茶業関係者へ配布した。

静岡八十八夜新茶のポスター2種1,600枚を作成配布した。

イ 出前講座による小学校の学習支援や県内イベントでの静岡茶のPR

県内小学中高学年を対象に出前講座を延べ59回 受講生徒数 3,423人実施した。

また、「こどものくにイベント」や「第6回食育推進全国大会」での新茶の呈茶のほか、県内で開催される大規模イベント及び全国会議に日本茶インストラクターを派遣し静岡茶を呈茶し、ファンの拡大を図った。

エ 静岡茶風評被害対策

本県の茶より暫定規制値を上回る放射性物質が検出された。このため、県内の関係機関と連携し、放射能や法律の専門家の協力を得て、起因者である東京電力への損害賠償請求の交渉、風評被害の拡大防止、静岡茶の信頼回復等の対策を検討するため、静岡茶放射能被害対策委員会を設置した。

メディアを活用して、多くの消費者に静岡茶の正しい情報を発信し、静岡茶の早期信頼の回復を図るため、セミナーを開催し、その模様を朝日新聞へ掲載したほか、各種イベントの積極的に参加して、静岡茶の安全性と美味しさ・魅力をPRし、新しい静岡茶ファンの拡大に努めた。

また、東京において茶商を対象とした勉強会「知って得す

るお茶セミナー～参加すれば何かが得られる、聞いて得するセミナー～」を開催した。

オ 静岡茶を用いたスイーツ料理等コンテスト

静岡茶に合うスイーツを一堂に集め紹介することにより静岡茶の魅力を訴求し消費拡大を図ることを目的に、第2回「静岡茶&スイーツマルシェ」を浜松市で開催するとともに、静岡茶に合う創作スイーツレシピコンテストを行ったほか、静岡茶&スイーツ冊子を作成した。

(3) しずおか茶販路開拓事業

ア 他県における静岡茶のPR

静岡茶を販売する主要消費地の茶専門店の販売促進活動を支援するため、東京茶業青年団と協働で、「母の日新茶キャンペーン」を開催するとともに、静岡茶販売促進ツールの制作し配布した。

イ 緑茶消費の少ない地域での静岡茶普及

静岡茶の普及のため、緑茶消費が少なく、今後需要が見込まれると考える地域である北海道の北海道茶商組合理事長と相談して、リーフ需要を喚起するためのティーボトルを製作し配布した。

ウ 茶の効能・機能性に関するPR

大消費地において、一般消費者を対象にした効能に関するシンポジウムを東京と掛川市で開催した。

最新の茶効能等の研究成果に係る講演会を静岡市で開催した。

緑茶うがいのインフルエンザ予防効果を科学的に立証するため、平成23年12月～平成24年2月の間、高校生(小笠地区757名)対象にランダム化比較試験を実施した。

2 委員会等開催費(事業費614千円)

本県茶業の発展をはかるため、業界の諸問題を協議する事業委員会・財務委員会及び団体長会議・事務連絡会等を開催し、諸振興策を検討するとともに団体間の連絡調整を図った。

3 広報・情報収集、発信事業(事業費647千円)

県内茶業者へ、本会事業を告知するための広報誌を発行する。

4 茶業振興対策事業(事業費1,739千円)

県内各地で開催される各種茶業大会・品評会・共進会等への表彰状(副賞)交付や杉山彦三郎翁顕彰会への助成、献上茶謹製事業への助成、茶業功績者表彰等を行った。

5 生産履歴システム(事業費6,142千円)

MA²Cシステム(静岡茶防除履歴システム)の廃止に伴い、サーバーリース料を一括返済した。

6 全国お茶まつり負担金(事業費11,170千円)

平成24年度に開催する全国お茶まつり実行委員会を設置するとともに、実行委員会へ負担金を支出した。

7 管理費(事業費29,655千円)

茶業会議所の事務運営管理等へ支出した。

8 負担金(事業費5,200千円)

日本茶業中央会など関連団体の会費として負担した。

9 特別会計繰入(事業費5,302千円)

茶業会館等の維持・管理を図るための資金等へ支出した。

10 会員団体事業(事業費75,450千円)

会員である県経済連及び県茶商が実施する生産改善及び消費拡大のための事業経費に支出した。

11 次年度繰越(事業費6,585千円)

平成24年度へ繰越した。